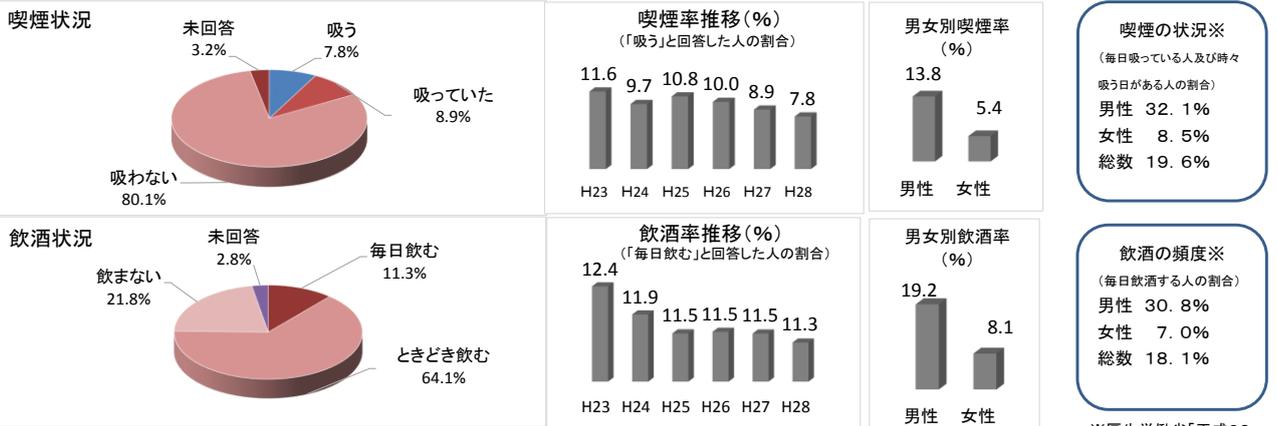
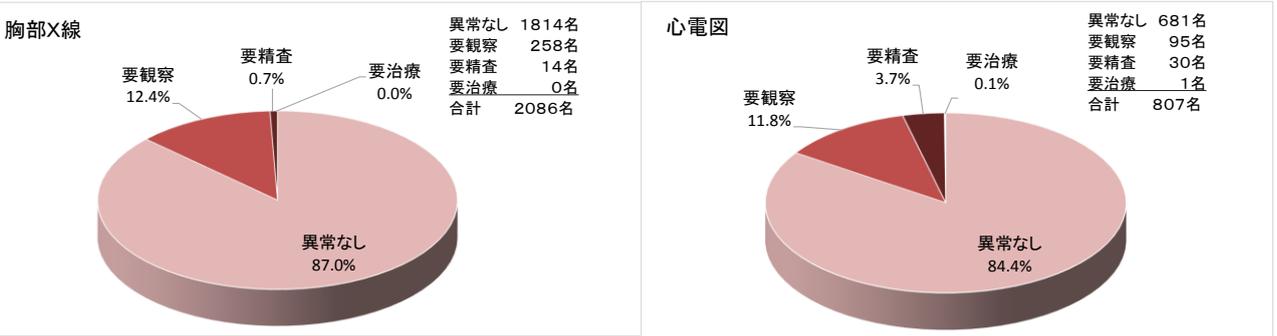
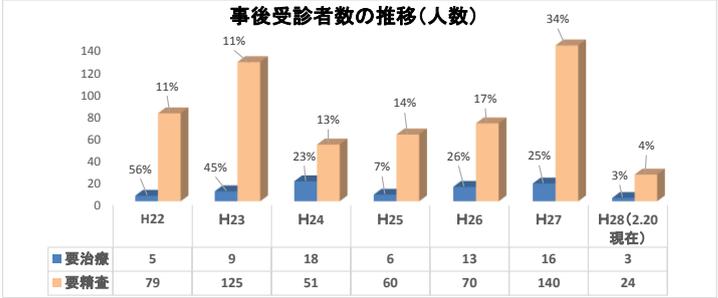
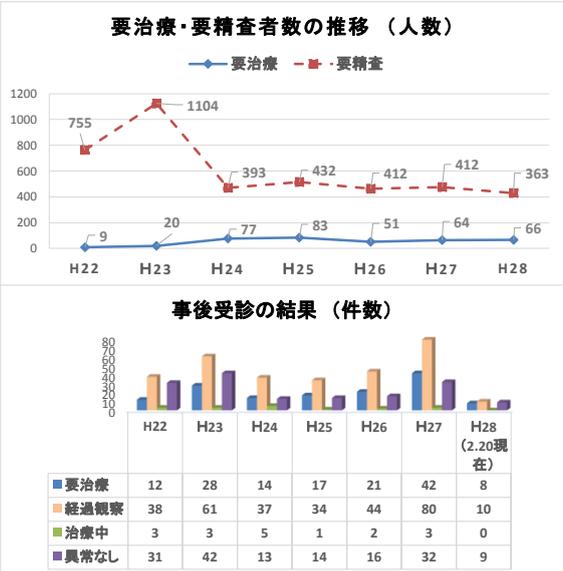


男性は脂質異常、肝機能障害ともに30代、40代が多い。働き盛りでストレスが多い年代であり、生活習慣の乱れがうかがわれる。貧血は男女差が大きく、女性の30代に多く、閉経期を迎える50歳代以上では性差がなくなる。貧血の原因となる疾患がないか注意が必要。男女ともに加齢とともに異常が増加している。精査以上の判定を受診行動に結びつけることが職員の健康増進のため重要である。



事後受診について



事後報告の対象者(要治療・要精査)は、429名で昨年度から減少した。事後受診者数は、H24年度からH26年度までは、毎年約70~80名、受診率約15%前後と少なかったが、H27年度は156名、受診率約33%と大幅に伸びた。事後受診の結果、経過観察と異常なしが最も多かった。職員の健康の増進には事後受診率を上げ、治療につなげていくことが大切である。

※厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」